KUMA ニュース
Kodomo Uchu Mirai Association
No.31 2023.spring

“宇宙を視座に大人が変わる 子どもが輝く 美しい星が生まれる”【子どもと宇宙と未来をつなぐ】

ポストコロナの宇宙教育と「宇宙の学校」

副会長 稲葉 茂

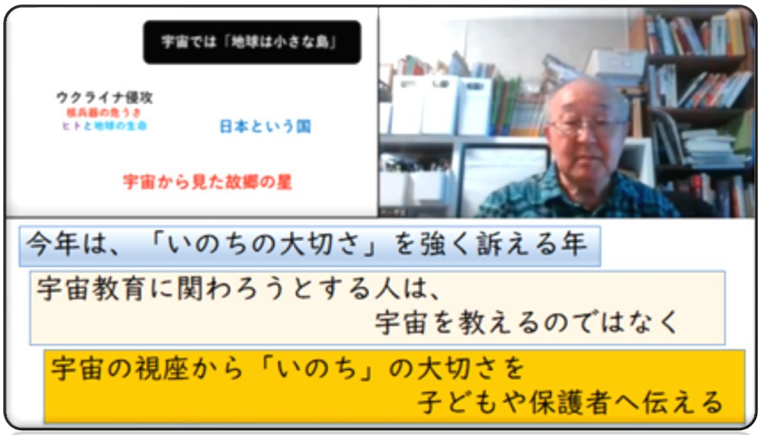
2022年2月24日、突然、ロシアによるウクライナ侵攻がはじまりました。その日は、どのチャンネルでもウクライナの現状が報告されていました。特に私の印象に残ったことは、首都キーウに着弾するミサイルとその惨状でした。

宇宙開発技術の要となるロケットは、今から170年前にロシアのコンスタンチン・ツォルコフスキーにより、宇宙旅行を可能とする論文が公表されました。その後、1942年にドイツのフォン・ブラウンがロケット技術を応用した弾道ミサイルを開発しました。その後、彼は、アメリカに渡り、アポロ計画に参画し、人類を初めて月に送るサターンロケットを開発しました。このようにロケット技術は、人の夢を膨らませることと「いのち」を奪うことの表裏一体であることが分かります。

私は、2022年の5月に名誉会長である的川泰宣先生に**「宇宙開発技術と戦争」**についてオンラインで問いかけてみました。

的川先生からは、**「今年は、「いのちの大切さ」を強く訴える年」**という言葉をいただきました。

コロナ禍を迎えて3年目。各地で対面による「宇宙の学校」が開催されるようになり、私は、**宇宙の視座から「いのちの大切さ」**を訴えるように心がけました。



具体的には、ウクライナ侵攻も異常気象も宇宙から見たらとても小さな星(地球)で起こっていることを中心に豊かな生活と科学技術について考えてもらうように努めました。

同時に久しぶりの対面活動で参加している子どもからも多くの事を学んだ一年でもありました。それは、オンラインと違って、子どもの表情を直接見て感じられたことです。どの会場でも、子どもの**「考える力」、「感じる力」、「想像する力」、「表現する力」の低下**を強く感じました。

その原因は、コロナ禍により子ども同士の活動が制限された結果だと思います。これから、「宇宙の学校」を主催する方々には、特にこの点を重視し、参加者の安全・安心を考慮する中で子ども同士の関わりがより強くなるような運営を事務局と相談しながら造り上げてほしいと思います。

事務局からのおしらせ

令和5年度通常総会は6月中旬頃の開催を予定しています。今年は対面とオンラインのハイブリット方式での開催を検討しています。資料は6月上旬ごろまでにお送りします。

JAXA 相模原キャンパスにて